

【古賀市が目指す将来像】

古賀市の将来都市像：第4次古賀市総合振興計画

【めざす都市のイメージ】 つながり にぎわう 快適安心都市 こが
 【公共交通に関連する方針】 JR3駅を拠点とした“歩いて暮らせるまちづくり”の推進

都市づくりの将来像：古賀市都市計画マスタープラン

【都市づくりの理念と目標】 “うみ”と“やま”の自然を大切にす都市づくり “さと”のゆとり環境と潤いを保つ都市づくり
 “まち”の利便性と魅力を高める都市づくり “まち”と“さと”をつなぐネットワークづくり
 【公共交通に関連する方針】 ①JR駅周辺の整備 ②公共交通ネットワークの確保

【古賀市における地域公共交通の役割】

〔役割1〕 JR3駅へのアクセスの確保によって、人の活発な行き来や都市活動の活性化を促し、古賀駅を核とした活気とにぎわいあふれるまちづくりを支える

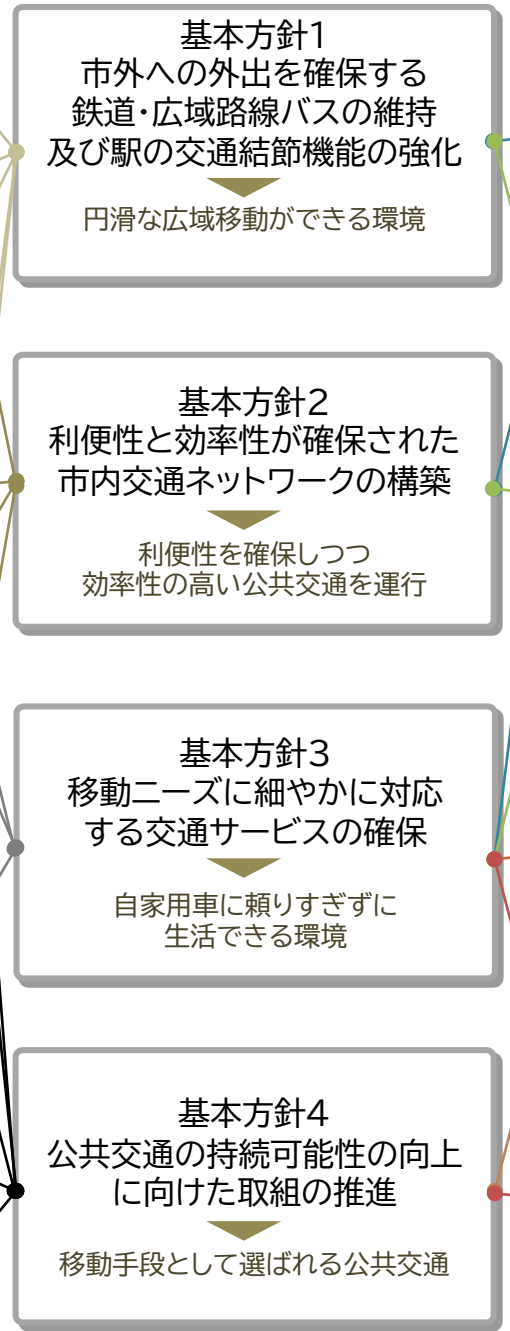
〔役割2〕 自由に移動することが困難な高齢者等の日常生活の移動が確保された、誰もが快適・安心に暮らせるまちづくりを支える

【解決すべき課題】

- 課題① 市内の外出先へのアクセスを支えている路線の維持・確保
 市民生活を支えていくため、今後も路線バスを維持していくことが必要
- 課題② 路線バスでは行けない外出先へのアクセスの検討
 市外への外出等、市民の移動の実情に合ったアクセスの検討が必要
- 課題③ JR各駅へのアクセスの維持・確保
 様々な交通モードでJR各駅にアクセスできる環境整備が必要
- 課題④ 高齢者の移動手段の確保
 高齢者のニーズに対応した移動サービスが必要
- 課題⑤ 細やかな移動サービスの必要性の検討
 路線バスに代わる細やかな移動サービスの検討が必要

(1) 移動ニーズへの対応の観点

【地域公共交通のあり方(基本方針)】



【具体的に取り組む施策・事業(案)】

- 施策1. 交通ネットワークの再構築**
- 1-1 現行路線の見直し(階層化)
 - ①西鉄バス古賀市内線・コガバスの一体的な見直し
 - ②乗り換えしやすいダイヤの設定
 - 1-2 対応する移動ニーズの拡大
 - ①新たな技術の活用に向けた調査・研究
 - ②市外への移動ニーズへの対応に向けた隣接市町等との調整
- 施策2. 公共交通を利用しやすい環境の整備**
- 2-1 駅や主要停留所における待合環境や案内誘導の整備
 - 2-2 車両更新時におけるユニバーサルデザインに配慮した車両の導入
 - 2-3 公共交通に関する情報周知の強化
 - 2-4 多様な交通サービスの一元化に向けた調査・研究
 - ①情報の一元化
 - ②新たな料金体系や支払い方法
- 施策3. 利用の促進**
- 3-1 戦略的モビリティ・マネジメントの実施
 - ①自家用車との使い分け、公共交通の利用を促す情報提供
 - ②集会時における利用喚起
 - ③イベント時の乗り方教室の開催
 - 3-2 お出かけの動機づくりや公共交通ネットワークの見える化による利用促進
- 施策4. 様々な主体の参画・連携強化**
- 4-1 市民の参画強化
 - 4-2 福祉分野との連携強化
 - 4-3 隣接市町との連携強化

(2) 持続可能性の確保の観点

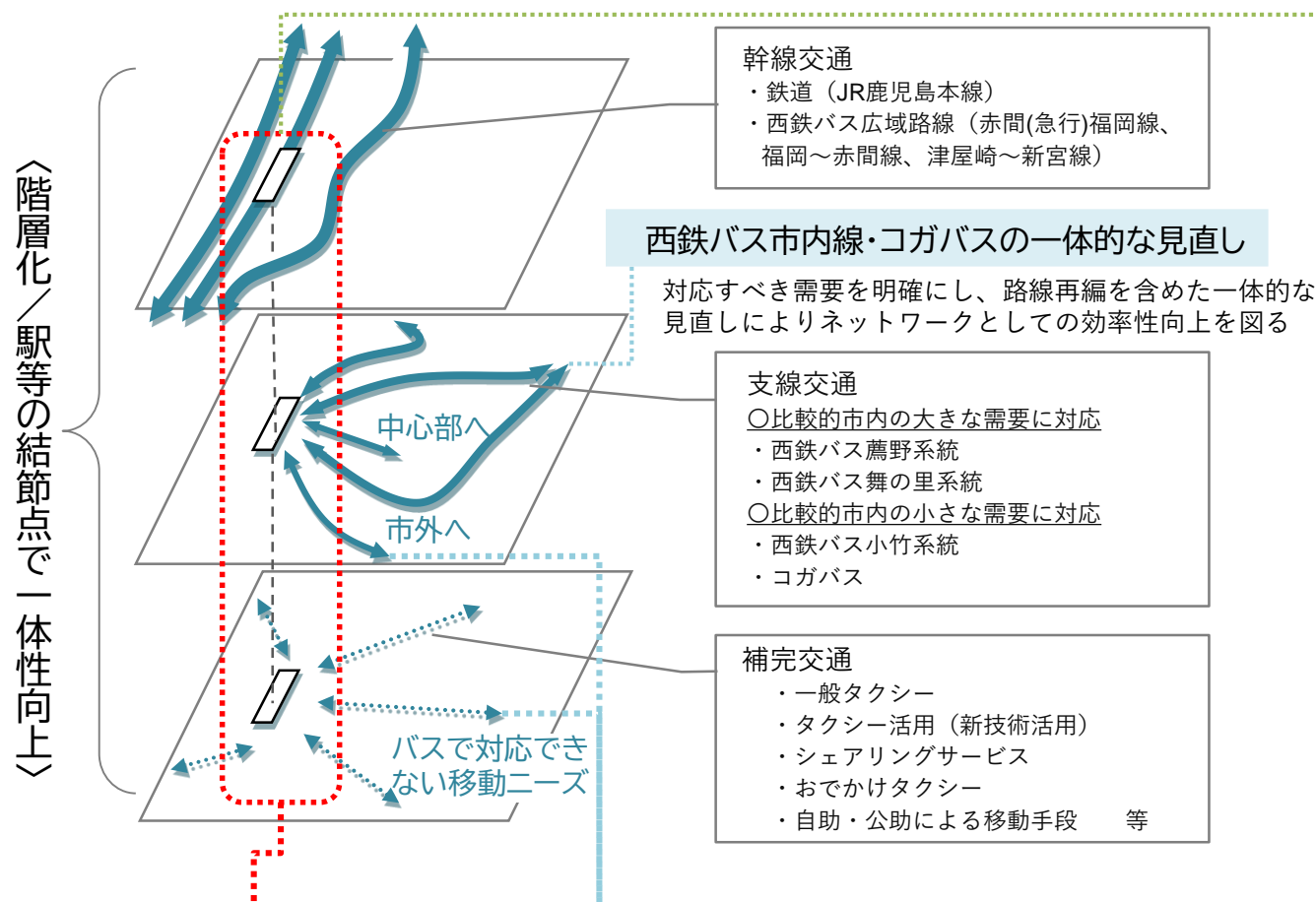
- 課題⑥ 運行効率化に向けた運行サービスの見直し
 運行効率化により収支状況の悪化に歯止めをかけることが必要
- 課題⑦ 運行の円滑化に向けた運行内容の見直し
 より円滑に運行できるよう運行内容の見直しが必要
- 課題⑧ 維持確保に向けた利用促進の展開
 維持・確保を図るため、利用の促進が必要
- 課題⑨ 維持確保に向けた市民の参画
 市民の興味・関心を高め、維持確保に向けて市民が参画していくことが必要

▲計画の体系

〔具体的に取り組む施策・事業(案)〕

施策1. 交通ネットワークの再構築

○現行路線の見直し(階層化)



○乗り換えしやすい ダイヤの設定

鉄道とバスが円滑に乗り換えられるようにダイヤを調整する。各駅において乗り換え方法の案内や周知を実施する。

○対応する移動ニーズの拡大

現状では対応できていないニーズへの対応を検討。
 ①高齢者やバス停から遠い地域の住民
 ⇒新技術による乗合サービス等に導入に向け調査・研究を実施。
 ②市外への移動
 ⇒隣接市町や交通事業者、関係する施設と調整を実施。

○戦略的モビリティ・マネジメントの実施

自家用車の利用を抑制し、「かしこくクルマを使う」意識を醸成する取組みを継続して実施する。今後は、PDCAサイクルを取り入れ、実施⇒達成状況のモニタリング⇒改善・見直し⇒定量的な効果発現 (利用実績向上等) を目指す。

〔取り組みの例〕

- ①自家用車との使い分け、公共交通の利用を促す 情報提供
- ②集会時における 積極的な利用喚起
- ③イベント時の 乗り方教室の開催

○お出かけの動機づくりや公共交通ネットワークの見える化による利用促進

生きがいづくりや健康づくり・介護予防など買い物や通院以外の目的の創出と標準的なバス情報フォーマットの活用など公共交通ネットワークの見える化を実施する。

施策3. 利用の促進

施策2. 公共交通を利用しやすい環境の整備

○駅や主要停留所における待合環境や案内誘導の整備

駅や主要停留所において情報提供の充実化や待合環境の整備・美化を実施する。

| 古賀駅、千鳥駅、ししぶ駅 | 古賀市役所、サンコスモ古賀 コスモス館、福岡東医療センター等 | 青柳四ツ角、米多比 |
|--|---|--|
| 〔交通拠点〕 | 〔拠点施設〕 | 〔集落拠点〕 |
| 鉄道、路線バス、コガバス等、様々な交通モードが結節する本市の公共交通ネットワークの中心。乗り換え利便性を高めることによりネットワーク全体の利便性を高める | バス路線沿線の公共施設、商業施設、医療・福祉施設、コミュニティ施設等主要施設。情報提供の充実化、待合環境の整備・美化により、公共交通の利便性を高める。 | 郊外における集落の拠点。情報提供の充実化、待合環境の整備・美化により、公共交通の利便性を高める。 |

○車両更新時におけるユニバーサルデザインに配慮した車両の導入

誰もが安全かつ快適に移動できるよう、車両を更新する際は低層車両等のユニバーサルデザインに配慮した車両の導入を推進する。

○公共交通に関する情報周知の強化

広報誌やインターネット等の活用、時刻表や路線図の配布エリアを拡大する等情報の周知を強化する。

○多様な交通サービスの一元化に向けた調査・研究

様々な移動手段をシームレスに使える環境づくりに向けて取り組む。

①情報の一元化

⇒時刻検索や駐車場の空き状況検索、タクシーの予約等、様々な情報の一元化に向け研究。(将来的) 病院や行政サービスと移動を一括で検索・予約ができることも検討。

②新たな料金体系や支払い方法

⇒移動にかかる費用をパッケージ化して定額制とする、ICカード等の単一の方法で支払いできるような仕組みを調査・研究。

○市民の参画強化

利用側である市民の参画 (積極的な利用、利用促進) を促すことで持続可能な公共交通を目指す。



移動手段確保に向けた地域の主体的な取り組みへの支援 (情報提供、費用一部負担等) 体制を構築

○福祉分野との連携強化

高齢者等の移動手段確保は福祉の領域にまで広まっていることから、福祉分野の参画を強化。

○隣接市町との連携強化

市単独だけでなく、周辺市町との連携を図り、地域の垣根を越えた移動手段の維持・確保や、周知・PR活動、利用促進企画等の取り組みを実施。

施策4. 様々な主体の参画・連携強化